第６８４回建設技術講習会 現場研修事業の概要

１．熊本城震災復興事業［熊本市］ …… 熊本市中央区

・平成28年4月14日に発災した熊本地震から6年が経過したが、熊本城では、現在も復旧事業が進められている。

・熊本城は、過去類を見ない甚大な被害を受け、倒壊・崩落一部損等を含め重要文化財建造物13棟及び再建・復元建造物20棟の全てが被災した。石垣は全体の約３割に当たる約23,600㎡に崩落や膨らみ・緩みなどが見受けられるほか、便益施設等26棟も屋根や壁が破損し、地盤についても約12,345㎡に陥没や地割れが発生するなど被害は熊本城全域に及んだ。

・現在、天守閣と長塀の工事は完了したが、復旧工事全体の進捗は2割程度であり、石垣が崩落して1列の隅石が櫓を支え「奇跡の一本石垣」で有名になった「飯田丸5階櫓」は、今年度から櫓下の石垣の積みなおしが始まるが櫓は解体されたままである。熊本城が、地震前の姿を取り戻すのは15年後の2037年度の予定となっている。

・熊本城天守閣復旧事業の完成により、令和３年６月から天守閣内部の一般公開が再開した。

２．立野ダム建設事業［九州地整］ …… 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字立野地区（右岸）

・白川流域は、全国平均に比べて降水量が多く、地形的特性から洪水が発生しやすく、これまで昭和28年６月洪水を始め、平成24年７月洪水など、たびたび白川が氾濫し、家屋の浸水被害が発生。このため、同様の洪水に対して被害を防止するための早期の治水対策が望まれ、白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的とした立野ダムの建設事業が計画された。

・立野ダムは、平常時は水を貯めない洪水調節専用ダム（流水型ダム）で、昭和28年６月洪水と同程度の洪水を安全に流すことを目指し、基準地点である代継橋地点における基本高水のピーク流量3,400㎥/sを、立野ダムにより400㎥/sの洪水調節を行い、計画高水流量3,000㎥/sに低減し、洪水被害の防止又は軽減を図る。

・最先端の土木技術（ICT建機、CIM等）を活用し、事業を実施してきており、現在は、本体の打設を行っている。

３．都市計画道路益城中央線整備事業［熊本県］ …… 熊本県上益城郡益城町

・平成28年４月に発生した熊本地震の震源地に最も近い益城町の市街地では、６千棟を超える家屋が全半壊した。このため、倒壊した家屋が益城中央線（県道熊本高森線）を塞ぎ、交通機能が喪失し避難や支援、復旧等の活動に支障をきたすなど、防災面での課題が確認された。

・益城中央線は、熊本都市圏東部地域における主要幹線道路であり町の中心軸に位置付けられていることから、沿線を中心に市街地が形成されている。しかし、町の発展とともに交通渋滞が深刻化し、歩行者や自転車が安全に通行できる道路空間の確保がまちづくりの課題となっていた。

・熊本地震からの創造的復興のシンボルとなるまちづくりを支援する取り組みとして、平成29年３月に街路事業認可を取得し「交通の円滑化」「安全な歩行空間の確保」「防災機能の向上」を目的に令和７年度の完成を目標に都市計画道路益城中央線（約3.1ｋｍ）の整備に取り組んでいる。これまでに、歩道部は上下線合わせて約3.7kmの工事に着手し、うち約1.8kmが完成（令和４年５月末時点）するなど、復興後の姿が目に見える形となってきている。